

# この「モヤモヤ」を分析してみた

誰が得するのか、よく考えてみたり…



新聞でもテレビでもネット上でも「ブラック企業」批判が喧しい。たしかに、不当な労働条件で若い人材を酷使し、過労死に追いやりのような悪徳企業は即刻、退場すべきだ。しかし、個別の企業名を晒して袋叩きにする昨今の風潮には首を傾げざるを得ない。異様な盛り上がりを見せるブラック批判ブームの深層を探る。

「嫌だと思つたら辞めればいいのでは？」辞めるの自由よん

さる6月22日、ツイッターでこう呟いたのは、「ブラック企業」について意見を求められたホリエモンこと、堀江貴文氏だ。

「自由に辞めることができない、辞めても次の会社が見つからない」という指摘には、「会社行かなきやいいじyan。起業すりやいいじyan」と返答。さらに、「辞めた直後に一定以上の給与水準の仕事があるなら、み

## 「働きがない言い訳」か

（嫌だと思つたら辞めればいいのでは？ 辞めるの自由よん）

「自由に辞めることができない、辞めても次の会社が見つからない」という指摘には、「会社行かなきゃいいじゃん。起業すりゃいいじゃん」と反答。さらに、「辞めた直後に一定以上の給与水準の仕事があるなら、み

「んなそうしている」と突つ込まれると、「自分でやれよ! 何から何まで人頼みか!」と切り返した。堀江氏の周辺だけではない。最近、特に20～30代の若い社会人の間でブラック企業の話題に関心が集まっている。

「ブラック企業」とは、もともとは犯罪組織や暴力団と繋がりを持つ反社会的企業を指す言葉だった。それが07年頃からインターにて上で、"若年正社員を大量に雇用して使い捨てる企業"という新しい意味を帯びるようになる。『ブラック会社』に勤めてるんだが、

もう俺は限界かもしれない』（新潮社、08年刊）と題したビジネス書が映画化されたことを皮切りに、ブロック企業に関する書籍が次々に発売され、一般にも広く知られるようになつた。人気集めのパフォーマンスか、政党もブロック企業叩きに参戦する。自民党の雇用問題調査会は4月、若者の使い捨てが疑われる企業へのハローワークでの就職紹介を止める検討を始めた。民主党は参院選公約に『ブロック企業』問題については、求人票に離職率を明記させることをめざします」と掲げる。昨年からは「ブロック企業大賞」という企画も始まつた。第2回になる今年は

には明確な定義はありませんが、私たちには次の2つを基準にしています。1つは労働法やその他の法令に抵触、またその可能性があるグレーゾーンな条件の労働を従業員に強いる企業。もう1つはパワーハラスメントなど暴力的強制を常套手段とする企業です。今回選んだ8つの企業・法人は、すべて裁判での判決や行政上の認定が出ている事案を抱えているのです」

「辞めろ」と怒鳴られ続ける」といった明らかな問題点を指摘したものもある。その一方で、「一切上司に教える気がない」(運動会は全員参加)、「朝礼で社訓を読み上げる」(上司の話を聞く時にメモを取りとしつこく注意される)など、それが果たして問題企業なのかと首を捻りくなるような書き込みも多い。「ブラック企業就職偏差値ランディング」なるネット記事もそうだ。大手機械メーカー居酒屋チエーン、IT関連企業など、そうそうたる企業の名が上位を占める。だが、それらが本当に法令違反を指摘できるほどの苛酷な労働を強いているのは、全くないままで。

### ●2012年(第1回)受賞企業

受賞名	受賞企業名	業種
大賞	東京電力	電気
市民賞	ワタミフードサービス	飲食サービス
業界賞	富士通ソーシアル サイエンスラボラトリ	情報通信
業界賞	フォーカスシステムズ	情報通信
ありえない賞	ゼンショー	飲食サービス
特別賞	ウェザーニューズ	情報通信

#### ●2013年(第2回)ノミネート企業

企業名	業種
ワタミフードサービス	飲食サービス
クロスカンパニー	小売業
ベネッセコーポレーション	教育
サン・チャレンジ	飲食サービス
王将フードサービス	飲食サービス
西濃運輸	運輸
東急ハンズ	小売業
東北大學	教育

業大賞」という企画も始まつた。第2回になる今年は6月27日に8つのノミネート企業、法人が発表され(上表参照)、現在、ネット上で投票が行なわれている。8月中旬に大賞が発表されるという。

たに詰られない 抱半を受けて当然であり、そうした体質は改めるべきである。だが、ネット上ではそうした基準はあってないようなものだ。

法令違反を指摘できるほど  
の苛酷な労働を強いている  
かは、検証されないままだ。  
ネット上の書き込みを見  
ると、一体どこに彼らのい  
う、ブラックじゃない「普  
通の企業」があるのかと思  
えてしまう。若者たちのブ  
ラック企業批判は、「そんな  
企業ばかりだから俺は働け  
ないんだ」という「働くか  
ない」といふ「言い訳」にも聞こえてくる。

# きつかけは駄のホレムだつた ようこそ、わが家へ

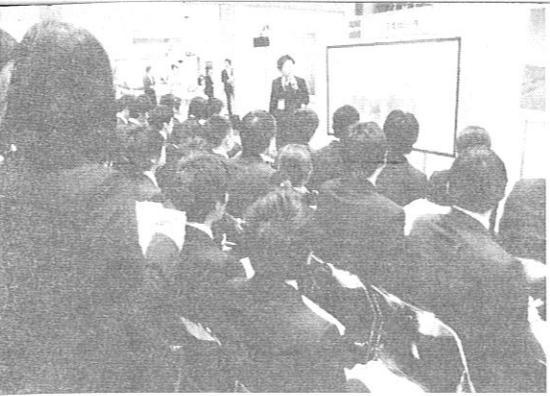
直木賞作家 池井戸潤 文庫でいきなり登場!! 定価730円(税込)

根拠もなく「ブラック企

業」として攻撃対象とされ  
る企業も増えている。そし  
ていつたんブラック企業と  
“認定”されてしまえば、  
被るダメージは甚大だ。

企業の評判や管理などの  
相談を受けるマーケティング  
会社「ネクストリンク」  
には、こんな相談が寄せら  
れる。

「問題があつた事実もない  
のに、『ブラック』だと書か  
れて困っているという事例  
は多い。会社で気に入らな  
い」と書かれていれば、  
企業の評判に敏感な就活生への影響は大きい



企業の評判に敏感な就活生への影響は大きい

いことがあつた現役社員や  
元社員が、ありもしない悪  
口を挙げて『ブラック企業』  
だと書く。その企業の知名

度が高ければ高いほど、そ  
の情報が拡散してしまう。

採用面では害を被つて  
います。求人広告を出した  
時、応募する人はインター  
ネットなどでその会社を調  
べる。その時に『ブラック

企業』と書かれていれば、  
応募人数が減ったり、内定  
を出しても辞退されたりす  
るケースが多くなっています  
います』(大和田涉社長)

企業にとって優秀な社員  
を採用できるかどうかは死  
活問題だ。実際、ブラック  
企業だと名指しされた企業  
の関係者が打ち明ける。

「内定者がブラック企業批  
判を見て不安を覚え、『本  
当ですか』と連絡してくる  
ことがあります。若い社員の  
親御さんが心配して連絡し  
てくるケースもある。採用  
チームが直接会って説明し、  
懸念に誤解を解きましたが、

今後、それが理由で内定を  
辞退したり、就活生の応募  
が少なくなったりする懸念  
があり、頭を抱えています」  
さらに深刻なのは、実際に  
にはブラックでもなんでも  
なかつた企業が、「ブラック企  
業化」してしまったがた  
「叩かれた結果、採用が減  
ったり中途退職が続出した  
りすることで、残つた社員

企業叩き」にあつたがため  
に、本当に「ブラック企  
業化」してしまったがた  
企業叩き」にあつたがため  
めに、本当に「ブラック企  
業化」してしまったがた  
企業叩き」にまかり通  
つたり中途退職が続出した  
りすることで、残つた社員

企業叩き」にまかり通  
つたり中途退職が続出した  
りすることで、残つた社員

が少なくなれば、業績が  
悪化することもある。批判  
が企業を苦境に陥れ、その  
苦境を乗り越えるために社  
員に負荷をかけると、本当  
にブラック企業になつてしま  
う悪循環になりかねない  
（大手証券アナリスト）

「こんな『冤罪』がまかり通  
れば、日本経済はいつたい  
どうなつてしまうのか。

## かえつて就職格差が広がる

そもそも個別の企業名を  
挙げて『ブラック企業』と  
批判することに、疑問を呈  
する声も少なくない。

人事コンサルタントの城  
繁幸氏は、日本型の労働慣  
習こそ問題だと指摘する。

「終身雇用を守ることが最  
優先で、そのためには多少  
のことは大目に見る」のが  
日本の労働法制です。例え  
ば残業も月45時間までとい  
う上限は一応あるが、労使  
協定を結べば青天井で命  
じることができます。それは、  
忙しい時には新たな雇用で

はなく、今いる社員の残業  
で乗り切るためです。もし  
忙しい時に人を雇つてしま  
うと、暇な時に誰かをクビ  
にしなければいけなくなる。  
それを避けるためなのです。  
その結果、サラリーマン  
の過労死は労災認定される  
だけでも年300件前後に  
のぼる。しかし、そのほと  
んどは違法ではなく、労働  
基準法上は合法。だから個  
別企業の名前を挙げて『法  
律を守らせろ』『経営者は  
モラルを重視しろ』といつ  
た議論を100年続けたと

ころで、状況は一步も改善  
しません』(城氏)  
城氏が提案するのが、規  
制緩和による「雇用の流動  
化」である。終身雇用は現  
実にはもう機能していない。  
実態に合うよう、規制緩和  
によって賃下げや解雇をし  
やすくする一方で、国が労  
働時間の上限を設けるなど  
して労働環境を守る。そう  
すれば、忙しい職場は人を  
雇うようになり、クビにな  
った人も働き口を見つけや  
すくなるというわけだ。

「若者を見殺しにする國  
（朝日新聞出版刊）など、若  
者の労働環境に詳しいフリ  
ーライターの赤木智弘氏は  
次のように指摘する。

「個別企業を追及しても、  
当事者たちの溜飲を下げる  
だけで、社会を変える力に  
はありません。それどころ  
か、企業が人を雇つてトラン  
ジタル&エラーし、ダメだ  
ったら辞めてもらうことに  
よる離職率の高さを批判し  
てしまふと、企業側はさら  
に『高学歴で優秀でフレッ  
シャーにも強い人材だけを  
採用しよう』というように  
します」(伊藤氏)  
目下、安倍首相はIT系  
など新興企業を中心とする  
新経済連盟（代表理事・三  
木谷浩史、衆院議員）と急接近  
し、彼らの意見を取り入れ  
て規制改革を進めている。  
そうした動きに、旧来型の  
大企業が危機感を募らせ、  
一連のブラック企業批判を  
使って新興企業群に搔きぶ  
りをかけていると見る向き  
もある。

これまで日本が生み出せ  
なかつたのは、生き方の選  
択ができる個人であり、そ  
の選択を可能にする社会で  
ある。ただブラック企業ば  
かりを叩いていても、その  
先の社会の在り方は見えて  
はこない。

## ブラックの犠牲の上にホワイトがある

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

例えば6月26日の日経電  
子版で、伊藤忠商事前会長  
の丹羽宇一郎氏がブラック  
企業批判を展開した。

「収益第一で社員を使い捨  
てにする」。これがブラ  
ック企業の共通した特徴の  
ようですが、「企業の社会的  
責任」の考え方がここまで

家庭との時間や趣味を大切  
にする。それゆえ雇用のミ  
スマッチが少ないのです」  
それに對し、日本企業、  
とくにブラックのレッテル  
を貼られた企業は、採用の  
段階から全員にホワイトカ  
ラー的な働き方を求める傾  
向が強いという。

「日本人は眞面目な上に自  
分の能力を高く見積もりす  
ぎる傾向がある。実際は能  
力がついていかない人でも、  
他の人間ができるの  
にお前にできないはずがな  
い。もっと頑張れ」と上司  
にいわれると頑張ってしま  
う。その結果、過剰労働で  
体調を崩し、果ては過労死  
に至るケースも出てきてし  
まうのです」(宋氏)

一方、ブルーカラーは工場  
で9時から5時といつた定  
時勤務時間で働いて、後は  
やらない働いて高給を得る。  
ホワイトカラーは自己責任  
で早朝から深夜までがむし  
やらに働いて高給を得る。

一方、ブルーカラーは工場  
で9時から5時といつた定  
時勤務時間で働いて、後は

「アメリカの企業の採用は  
最初からホワイトカラーと  
ブルーカラーではつきりし  
た選別が行なわれている。  
ソフトブレーン創業者で、  
経営コンサルタントの宋文  
洲氏である。

「アメリカの企業の採用は  
最初からホワイトカラーと  
ブルーカラーではつきりし  
た選別が行なわれている。  
ホワイトカラーは自己責任  
で早朝から深夜までがむし  
やらに働いて高給を得る。

一方、ブルーカラーは工場  
で9時から5時といつた定  
時勤務時間で働いて、後は  
やらない働いて高給を得る。  
ホワイトカラーは自己責任  
で早朝から深夜までがむし  
やらに働いて高給を得る。

「アメリカの企業の採用は  
最初からホワイトカラーと  
ブルーカラーではつきりし  
た選別が行なわれている。  
ホワイトカラーは自己責任  
で早朝から深夜までがむし  
やらに働いて高給を得る。

一方、ブルーカラーは工場  
で9時から5時といつた定  
時勤務時間で働いて、後は  
やらない働いて高給を得る。

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります

なぜブラック企業叩きが  
過熱するのか。ネット上、だ  
けではなく、影響力の強い  
大手企業の経営者や、それ  
に寄り添う大手メディアが  
このブームを作り出している  
といつていい。

企業批判を展開した。

『週刊ポスト』次号(8月2日号)は7月19日(金)発売です

一部地域で発売日  
が異なります